

卒業される皆さんへ

学位記並びに修了証書を授与され、各々の課程を卒業される皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

それぞれ勉学の期間は違いますが、楽しく、厳しく、そして忙しく、充実した日々であったことと思います。とりわけ、コロナ禍の中に卒業の時を迎えるという、これからの人生においても忘れることの出来ないこの瞬間を含め、大切な思い出となることでしょう。

国内において、昨年の年頭から感染流行が始まった新型コロナウイルスは、今もって終息の時期が見えない状態が続いています。感染拡大防止のために様々な制約が課せられ、生活や仕事に支障がでるだけでなく、生きていくこと自体が脅かされる状況にもなっています。

近年、自然災害とそれに伴う甚大な被害が相次いで発生していますが、今回のコロナの、外形上は何も変わらない中に迫り来る恐怖は、未だ誰も経験したことの無いものではないでしょうか。

そのような中で、最前線において休むことなく戦い続けているのが医療関係者であります。これは、決してコロナ対応医療機関に限って言っているのではありません。前線を支える兵站部門、コロナ以外の患者に忙しく対応する医療機関など、総ての関係者・関係機関がその役割を果たしていると考えます。卒業される皆さんは、まさにそれを使命とする世界へ向かって飛び立とうとしています。怯まず・奢らず・諦めず 強い気持ちで立ち向かって下さい。

今回のコロナ対応については、県内での感染拡大防止のために、本学も積極的に関わりを持ってきたことは、皆さんもご存じのことだと思います。これから、看護の現場で、様々な事象発生時に対応判断を求められる皆さんです。感染終息後には、是非、本学を含め関係機関の対応について客観的に分析してみてください。

さて、今回のことで、あらためて思ったことがあります。それは、「ことば」、「ことばのちから」ということです。「ことば」は、人に勇気を与えることが出来ます。また反対に、人を攻撃することも出来ます。そして、何にもまして、人と人とを繋ぐことが出来ます。時に適い、場所に相応しく語られる「ことば」、優雅で品位の高い「ことば」には力があります。心を一つにさせることが出来ます。洗練された「ことば」を身に付けることは、実社会において極めて大事なことです。是非、これから看護の専門職者としての実践の舞台において、この大切な「ことば」を磨き「ことばのちから」を高めていって下さい。

たぐいなき手と目と心携えて弛まず尽くす遠白き道

これからのご活躍を心より願っています。

令和三年三月十六日 理事長 稲用博美